

## 情報連絡員報告・2月分

## 製造業の売上高、業界の景況DIが好転、非製造業は悪化

～収益状況のDIは製造業、非製造業ともに悪化～

&lt;東京都中央会&gt;

2月の情報連絡員報告によると、先月悪化した製造業の売上高、業界の景況DI(前年同月比)が好転、対照的に非製造業は、先月に引き続いて悪化した。

また、収益状況のDIは製造業、非製造業ともに悪化した。

特記事項では製造業の数業種より、業況は良好な状態にあるものの、業種間や組合員間での格差があり、先行きは生産原価の高騰等、収益面での不透明感があるという報告がよせられた。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

## 特記事項欄より

## 「木材・木製品」

- ・組合員間では、仕事量の差異はあるものの、全体的には可も不可もない状況で推移している。組合員数の減少幅は小さいが、少子高齢化の影響で確実に減少している。

## 「窯業・土石製品」

- ・景気の基調判断で2月は半年ぶりに上方修正。今回の修正は輸出と生産の回復に基づくものと言われているが、生産原価の高騰と排ガス規制等、厳しい現状に変わりはない。

## 「鉄鋼・金属」

- ・受注減少・原材料価格が高騰しているにもかかわらず、価格転嫁できない企

業は廃業に追い込まれている。また、企業間格差が拡大している。

- ・2月に入り、企業格差はあるものの多少良くなった。ただし、納期が短く、仕事に追われている。特に非鉄金属(銅合金地金・アルミ地金)の高騰が続き、経営を圧迫している。また、鉄鉄鑄物関連の原材料・副資材は高値で推移している。
- ・組合員の業況は二極分化しているが、総じて良好な状態が続いている。石油高騰を受け、エネルギーをガスに転換する企業がみられた。

## 「電気機器」

- ・総じて明るさが出ているが、ばらつきは相変わらず。例年はこれから受注、

操業度ともに下降するが、今年は持続できそうな気配あり。しかし、コスト増加の懸念はぬぐえず、収益面での不透明感がある。

#### 「卸売業」

- ・例年2月は閑散期であるが、例年以上に市況が冷え込んでいる。在庫量を減少させたり、経費の削減で現状を維持している。

#### 「小売業」

- ・売上は前年を割ってしまった。しかし、ネット販売は好調であり、ますますネット販売への依存が高くなっていて、受注金額も右肩上がりでも推移している。
- ・景気は回復基調との報道とは裏腹に、1～2月にかけて逆に悪くなっている市況で推移している。問屋も仕入値は

上昇しているが、売値に転嫁出来ない状態に陥っている。

#### 「商店街」

- ・2月の来街客は連日多く、暖房空調関連商品は好調に売れ、品切れ品も目立った。トリノオリンピックの影響でビジュアル関連商品の需要が期待されたが、思ったほどではなかった。

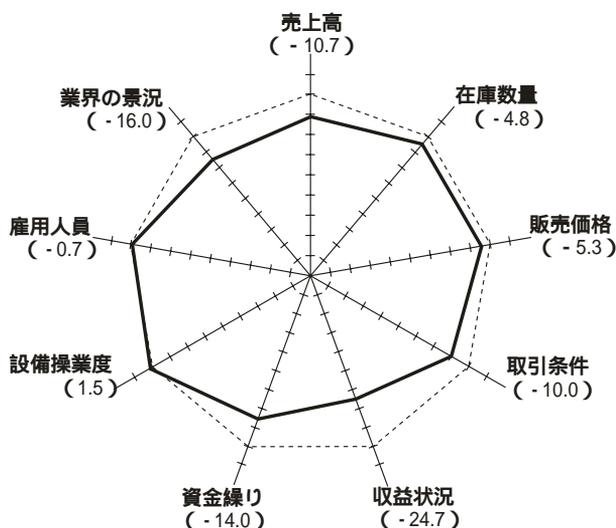
#### < 要望事項欄より >

- \*ものづくり・ひとづくりは中小・零細企業にとっては深刻な問題にとらえ、早期の対策を実現してほしい。

[ 木材・木製品 ]

- \*6月より開始される二輪自動車を含めた駐車違反の罰則が強化されるが、現状は「罰則あれど法整備なし」なので、行政の対応をお願いしたい。[ 小売業 ]

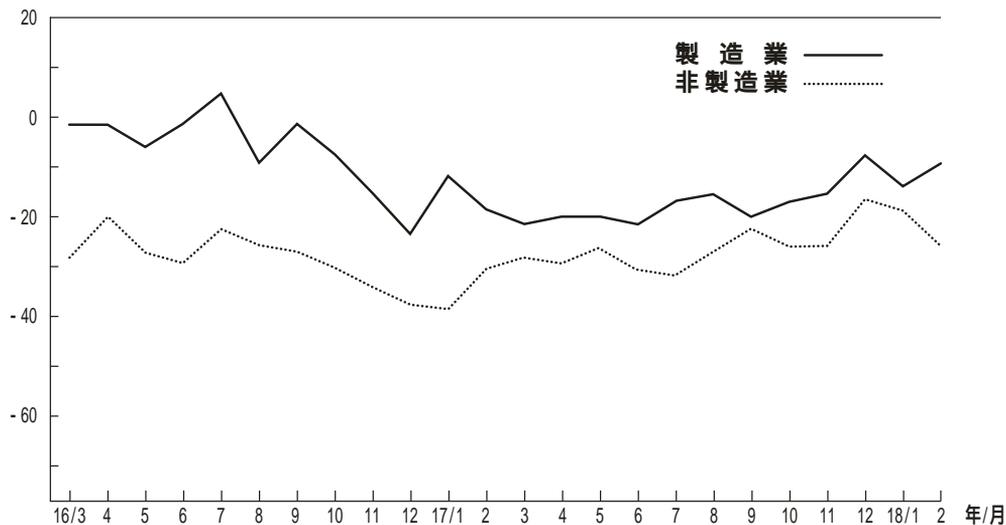
2月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）



(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

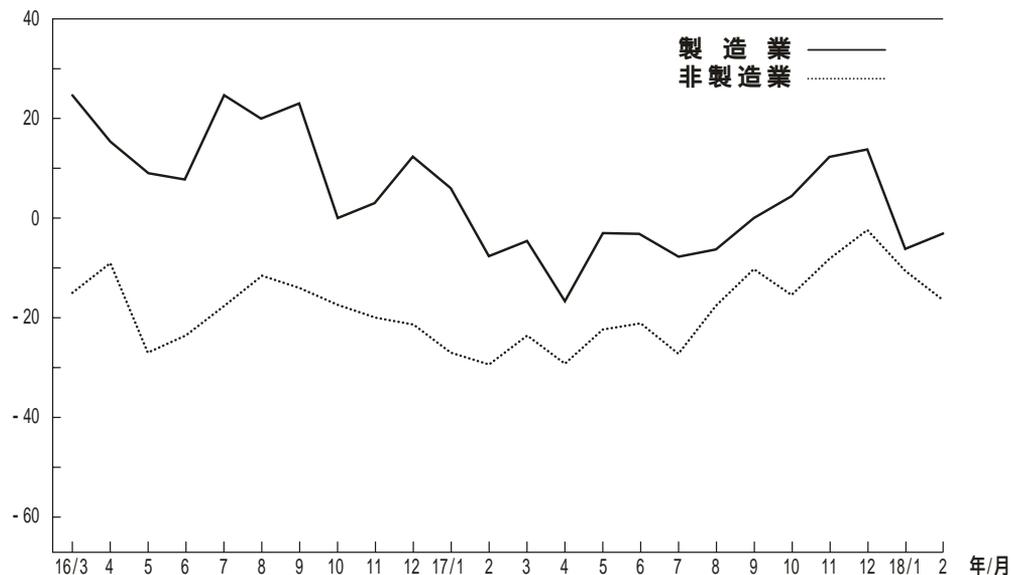
## 業界の景況DIの変化（H16.3～H18.2）

（前年同月比）



## 売上高DIの変化（H16.3～H18.2）

（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。